

掲 示 板

* 研修実施報告 ⑥ *

～ファシリテーター養成研修～

平成19年11月21日（水）～22日（木）

HEAL ホリスティック教育実践研究所 所長 金香百合 氏

ファシリテーターに必要とされる要素と技能の習得を図る目的で、講師にHEAL ホリスティック教育実践研究所 所長 金香百合（きむ かゆり）氏をお招きして、2日間の日程で実施いたしました。

定員は30名のところ、定員をはるかに超える募集があり、この研修の人気の高さを感じるとともに、ファシリテーターそのものの必要性、ニーズが高いものにあると感じられます。

ファシリテーターとは、単なる司会や進行役にとどまらず、参加者が平等に意見を言え、より民主的・建設的に学習や話し合いが進められるように、参加者自身の気づきや発見を促していく役割を担う人のことです。端的に言うと、常に中立的な立場を保ち、話し合いの場で参加者全員のコンセンサス（合意）を導いていく人のことです。

この研修では、ファシリテーターそのものの役割について知識詰め込みで考えるのではなく、人と接する、つまり、コミュニケーションを通じて、ファシリテーターとしての姿勢や知識、スキルを体得していくことに特徴があります。

ファシリテーターは、一見司会と同じように考えられることも少なくありません。金先生は、「ファシリテーターは最良の話し手であると同時に最良の聴き手でもあること。」また、「『聴く』ことは、十四の心で聴くこと。」とおっしゃっていたことは、コミュニケーションの場面で大切な姿勢を示しているといえるのではないかと思います。



ファシリテーターに絡む今日的な自治体を取り巻く状況として、庁内会議の場や市民とのワークショップ、まちづくり会議など対人折衝の機会がますます多くなっていることが挙げられます。会議では、限られた時間のなかで、いかに参加者全員のコミュニケーションを良好かつ円滑にし、最良の答えを全員が納得したかたちで導いていけるかが問われてきています。

実践の例として、金先生のワークショップは、大変興味深い研修内容でしたので紹介したいと思います。

金先生はファシリテーターの特色について、日本の徒弟制度を例に挙げ、ファシリテーターは徒弟制度に似ている部分があること、また、徒弟制度は、弟子が師匠を決めて、師匠の良いところを学び取り、自分のものにしていくことについて解説していただきました。弟子が師匠を信頼しているからこそ徒弟制度も成り立っているのと同じに、ファシリテーターも参加者との信頼関係の構築が大切だということです。

研修では、金先生の体験談を中心に、細かくテーマ設定をし、2人あるいは、4人で話し合うペアワークが中心でした。金先生は、まずは2人で、気軽に話し合うパートナーを見つけてからグループワークを行い、導入部分ですべて参加者の緊張をときほぐす、いわゆるアイスブレイク的な手法を取り入れておられました。

また、写真のように全員が円の配置になって研修で感じたことを川柳にして発表し、最終日にはこの研修で得たことを3つのキーワードで発表するなど、充実した研修内容となりました。受講生のアンケートからも、「職場だけでなく、生活全般に活かせる内容でした。」「今まで受けた研修の中で一番気づきや得たものが多かった。」など充実した感想をうかがわせるものばかりであったので、今後、各職場において研修で得たことを活かしていただければ幸いに思います。

【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研修課 TEL:06-6920-4567

掲 示 板

* 研修受講者レポート ⑥ *

～海外研修を終えて～

箕面市都市環境部都市環境政策課 栗組 悦子



今、世界各地で深刻な問題を引き起こしている地球温暖化。この問題への対策は、国や自治体にとって大きな課題です。今回、「持続可能な地域づくり」というテーマで、環境先進国として知られるドイツへの研修が行われると聞き、本市の地球温暖化対策についてのヒントを得たいという思いで参加しました。

今回の訪問先は、ハム市、ミュンスター市、ハンブルク市の3都市。ハム市では建物の省エネ化を進めるためのエネルギー・パスポート制度について、ミュンスター市では自転車にやさしいまちづくりや環境団体の活動について、ハンブルク市では学校の省エネをはかるための「フィフティ・フィフティ制度」や市の廃棄物政策についてお話を伺いました。興味深かったのは、やはり市の担当者や環境団体の人たちの生の声。書物では分からない現地の状況に触れ、驚いたり、感動したりの連続でした。

特に印象に残ったのは、環境配慮がメリットになるようなシステムが、上手に取り入れられていることです。日本ではまだ、環境保全や省エネは環境について意識の高い人が、快適さを犠牲にして行うものというイメージがあります。一方、ドイツでは省エネに対する経済的インセンティブの導入や、環境行動を促すための社会インフラの整備により、環境にやさしい生活のほうが快適で、経済的なものになるよう巧みに誘導しています。国のなりたちや国民性の違いもあり、今回見てきた制度をそのまま日本の自治体にあてはめて実現することは難しいですが、制度の基本となる考え方は自分のものにして、今後の環境政策に生かしていきたいと思います。

また、今回の研修では、府内の市や町で、景観・保育・福祉・文化財・道路整備・病院・納税・自治振興など、様々な分野の業務に携わっているメンバーと出会うことができました。役所での経験や関心分野もさまざまなだけに、同じ研修を受けても感じ方や出てくる質問は少しずつ違います。でもみなさんは非常に熱心で、視察の合間にはお互いに気づいたことや考えをぶつけあい、そこから多くを学ぶことができました。こうしたすばらしいメンバーとの出会いは、私にとってかけがえのない財産となりました。

最後になりましたが、今回の研修で出会った全てのかたへの感謝を込めて…ありがとうございました。



【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研修課 TEL:06-6920-4567